

人の数だけ「当たり前」

豊田小人権講演会「吃音」を考える

豊田小学校で11日、「なかよし旬間」に合わせて人権講演会が開かれた。この日は参観日で、全校児童130人と保護者約70人も聴講し、「吃音」について考えた。

講師は「みんなの当たり前は僕はむずかしい。〜知ってほしいな 吃音のこと」と題し、松本市神鷹遼析クリニックの言語聴覚士の内藤麻子さん、Body Medical Center



児童の前で語る清水さん

POC代表の清水直樹さんが対談形式で子どもたちに語りかけた。

はじめに内藤さんが「吃音」について、話し始める時に最初の一言が詰まったり、引き伸ばしたり、同じ音を繰り返したり、言葉が円滑に話せないことを紹介。

介。「えー」知らなかった」が対談形式で子どもたちに語りかけた。清水さんがヒューマンビートボックスを披露しながら登場して驚かせた。

清水さんも吃音を持っていたことやいじめられた経験、よく聞かれる質問を挙げてわかりやすく説明しながら、「話すことは好きだけれど、スムーズに話せないから聞き手になることも多い。苦手ではないから最後まで話すのを待ってもらいたい」と思うこともある。吃音を「正しく」知ってほしい。

内藤さんも「吃音の人は、どるのを真似されちゃう、変だと思われちゃう」と悩んでいる人について、一度話すのをあきらめると、話さないことが当たり前になってしまふ。だから笑ったっていいじゃないかと語りかけた。

特技のヒートボックスを披露したのも「みんなはあーいさつや音読が『普通』にできるけど、僕はヒートボックスをできるのが『普通』と清水さん。『人の数だけ』いろいろな『普通』。『当たり前』がある」とし、「吃音のことを知ってもらったけども気持ち良くなる。社会に出て吃音の人と出会ったら、味方になつて」と語った。